

## 第 39 回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

- 評価に関して「課題」のコメントを入れたのは非常に良い。評価委員会でのコメントを含めて課題という形で市民病院機構に対して指針を示すことができ、市民病院機構が次のアクションを起こす際に参考にすることができる。
  
- 年度実績評価に関して「救急医療」の小項目評価を「5」にしたのは大いに賛成である。厚生労働省実施の「全国救命救急センター評価」において総合評価で4年連続第1位となったことは大いに評価して良い。この実績で「5」にしなればどこも「5」にできない。
  
- 精神科身体合併症病棟の評価について、総合病院の精神科医師は専門病院に移ってしまう傾向にあり、全国的に不足しているが、その中で順調に運営し、利用率を上げている点は評価できると考えられる。
  
- 臨床研究中核病院に向けては、コンプライアンスに関する統制も重要となる。研究内容に関する倫理審査や、企業との関係における利益相反など、不正防止のための取り組みが今後更に必要になって来ると考えられる。これらの体制と機能はどのように働いているか。
  
- 神戸アイセンター病院を除く3病院は地域医療支援病院であり、紹介・逆紹介の推進、救急医療の提供、医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対する研修の実施が求められる機能になる。救急医療の提供は別項目に記載されているが、その他の3項目について、それぞれの病院が特に積極的な活動をしている内容があればお伺いしたい。
  
- 年度実績評価に関して「市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」の広報について、神戸アイセンター病院の事業を市民病院機構として、さらにPRすべきではないか。眼の問題だけでなく、眼に関する疾患は全身的な症状が影響していることもある。今後「市民病院機構として」眼の大切さを正しく市民に対して広報することで、生活習慣を含めた予防などの奨励にもつながると考える。